田舎源氏

廿三廿四編

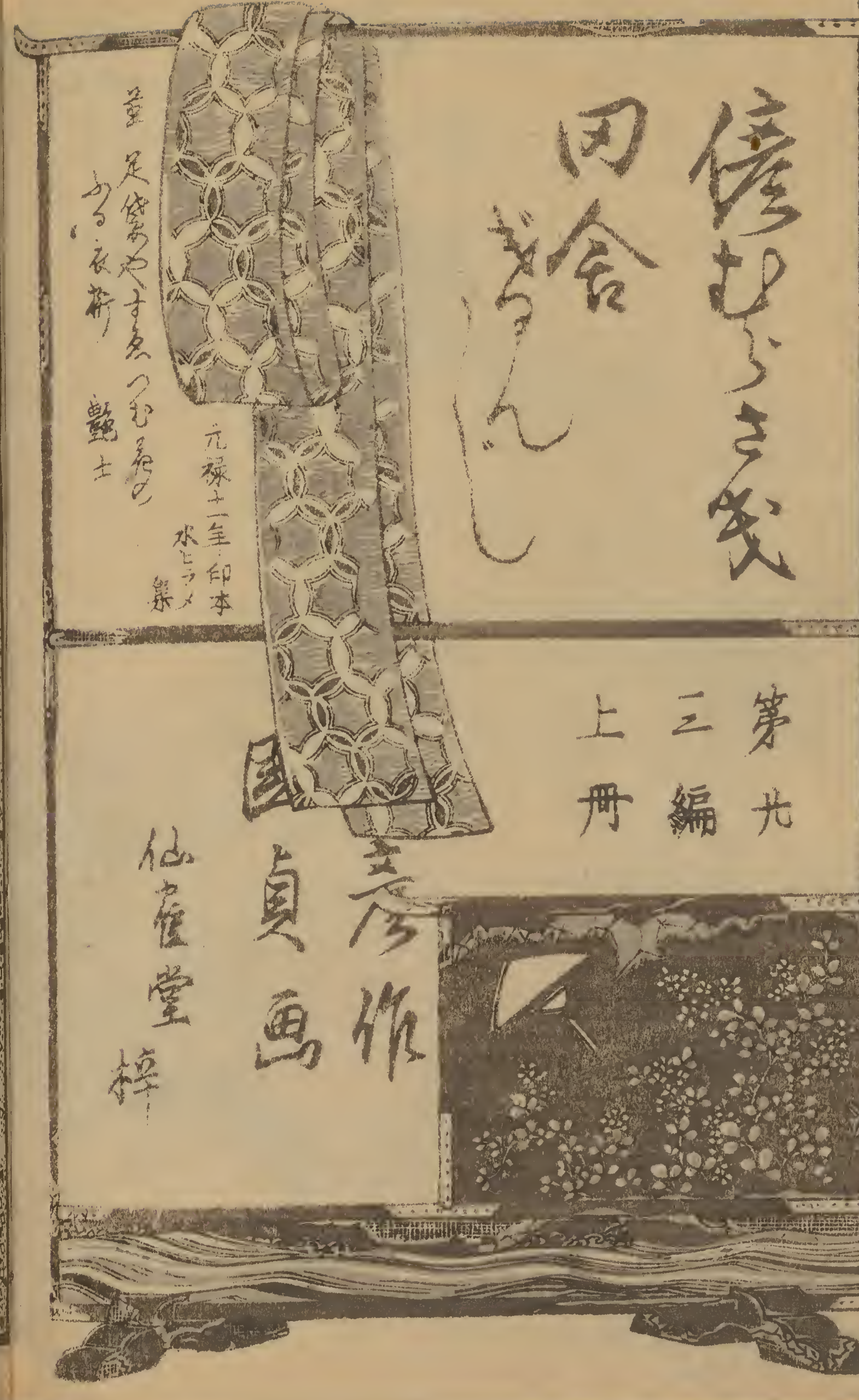
FREER GALLERY OF ART

偐紫田舎源氏第廾三編叙

楠死で大平記花和尚悟て水滸傳そもく源氏も須磨明石の月にかくれる薄雲の巻あるハ讀者の眠氣のさまし氣象し田舎源氏ハ殊更に婦女子に見する冊子なるまゝをさらにまた書漏し玉鬘の巻あるへ飛びて御見物の歎がつのでよろしからんぞて無用世話にやく者ありしがさまでハ思ひきりなきて此編ハ澪標と蓬生の打てかハ人関屋も繪語にゆづる碁を囲しと姫間又のそのとり程へ空蟬にあしまひてもおかしうもまさも書もらせよといひし人の何の是非もなきを言ま知り唯松風のきよくと常夏のふを綴しが更に奥なく風情もなしされども煮實の鎖されし御もあまされて秋川の繪合せむかしも見まへとかしこまりて記しまなん

天保丁酉開端

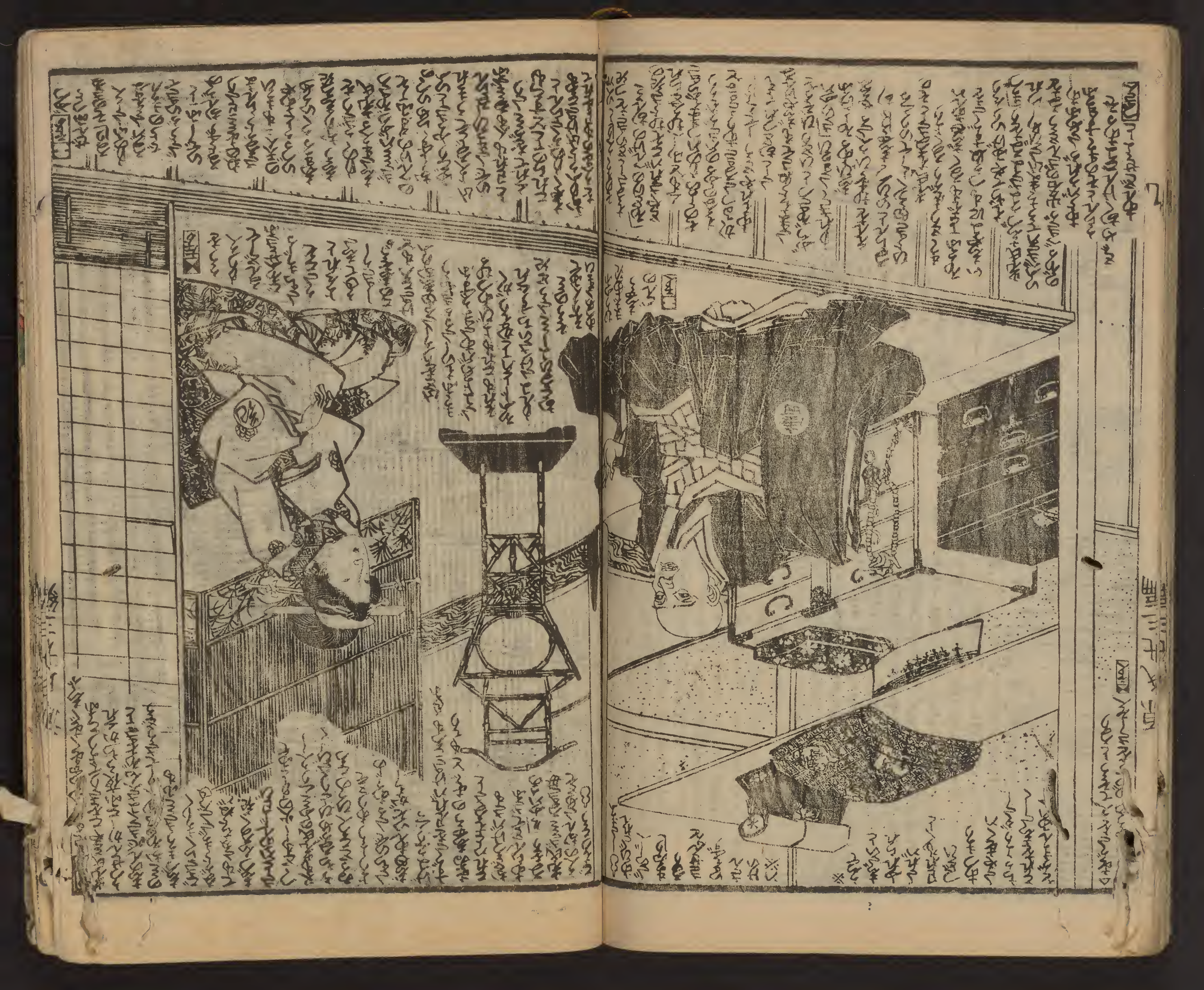
柳亭種彦

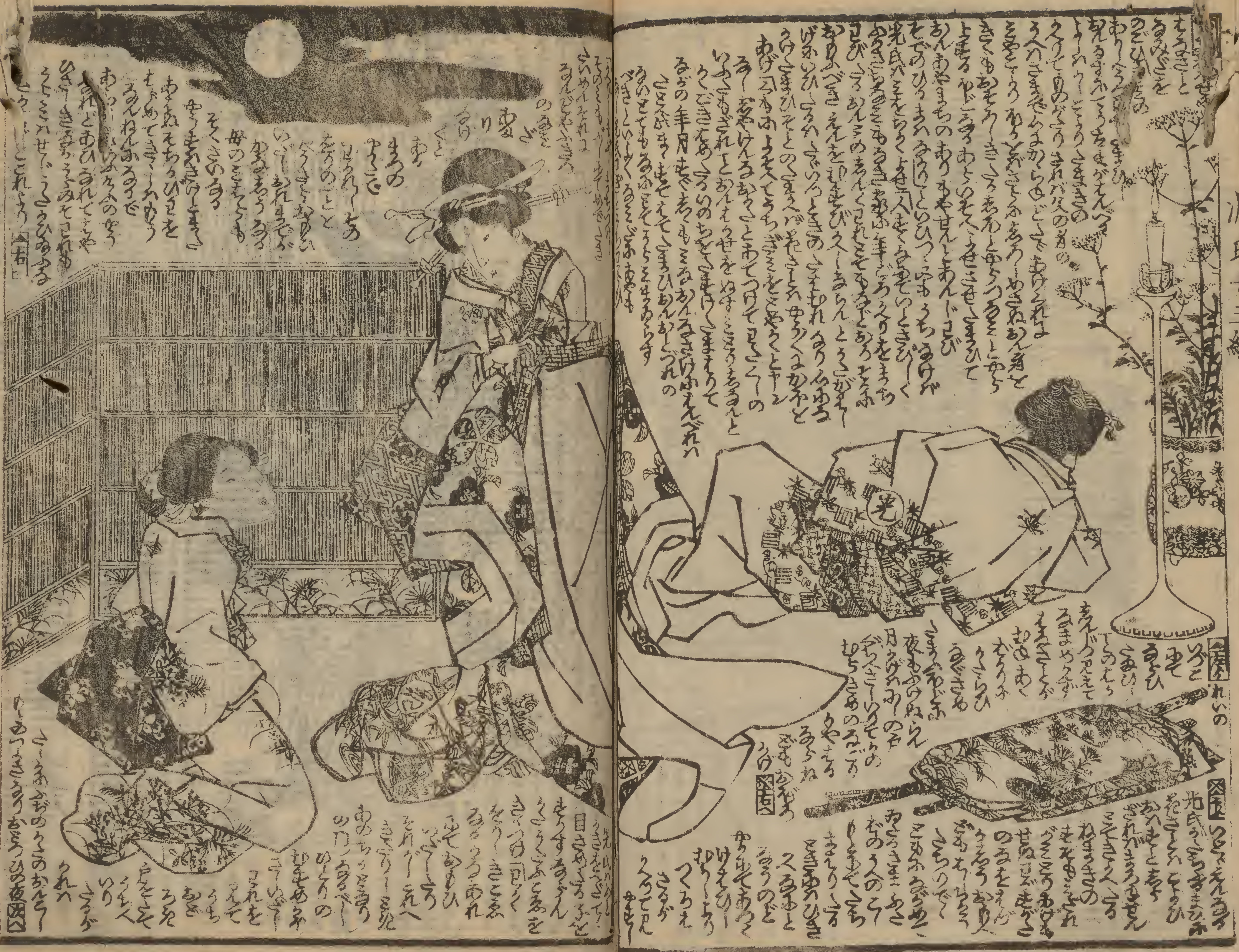


原氏七三編
源氏九三編

つき むかうをごらうじろ あかりがさすのはどうしたろう あれどうしてもおどろくぞ

▲星月とよばるるかどの目だるしにまがふ光
さもあるくやかにいどよりおりさちそまみ
うちの主人を見てしまふ むかしよりして
あさやかに今めきし様なるねづいふく
そこにあれまうりめまごけあ見まえ
まづらりのかもきみを見あまら
さすがにその目のなからずなぞそなか
ざしきのいとせまきがごとくま
こおもてのとよりかどもる人
なきあさきり戸に夾あるなら
やくそちうらんもつまきてされバ
こそ見ゆるをごんもき夢
こころあるべしとてずいそ見えし
くるぶ氏家のこなたの門をあけ
光氏を月のびふすうしうなむる女あり
ころやくもやらせられなのくらせまう宗
あるがあ光りの女なささと手をひきそこなま
いりけると今見えざとやあがしえうち
あんじてそそかぞしけれ
まなざことが氏わし月お星あれのり宗玉
つるそうげあれ花ことが光
ちなびのなさ光氏よりして
うちこのをあげかなとと
いはむもむねど花あ案
つげよあづのまうるむ
光氏のやつけむかう
ましまをあらとほし
ろ此りるのあはほ
あまんれ
ちんのみの中ろあやとのへむきりそやかきちるまのあやかもあからねどまさらあかめあめかなあまつ





東都未木園宗匠校輯

誹諧芳艸集 全二冊 開板

誹諧叢蘭集 全二冊 追刻

東都未木園宗匠校輯

俳諧今人附合集 全四冊 新刻板

元天保元年より当丸年までの間 海門宗匠の不や 政喜雅宕 あまた人々の附合五百巻を次第の流れ一冊にえらみ出す

俳諧今四歌仙 全壱冊

俳諧同輯 七人発句集 同出来

田舎源氏象箱枕やまひ たとう入 上仕立

御手遊袋入 小倉すごろく 種彦閲書 貞秀画図

昔咄 火打ぶくろ 全壱冊

昔咄 茶番のいろは 全壱冊

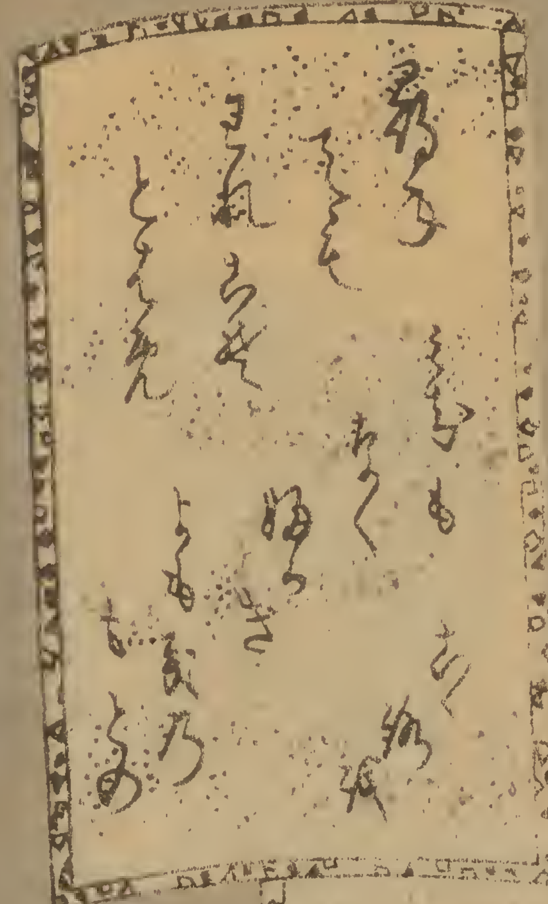
昔咄 浦島翁 全壱冊

昔咄 さらちち 全三冊

江戸御暦開板所 鶴屋喜右衛門

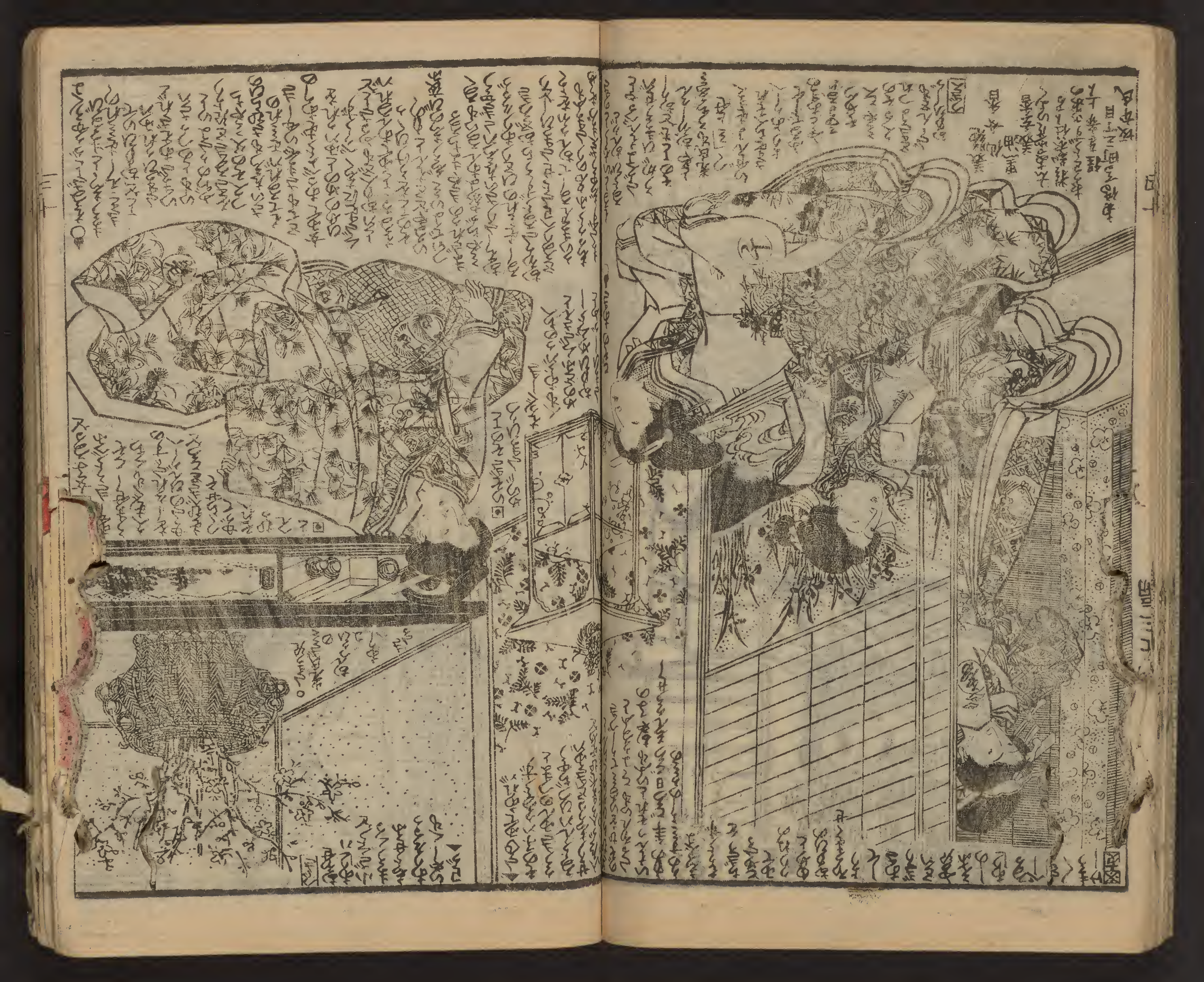
偐紫田舎源氏

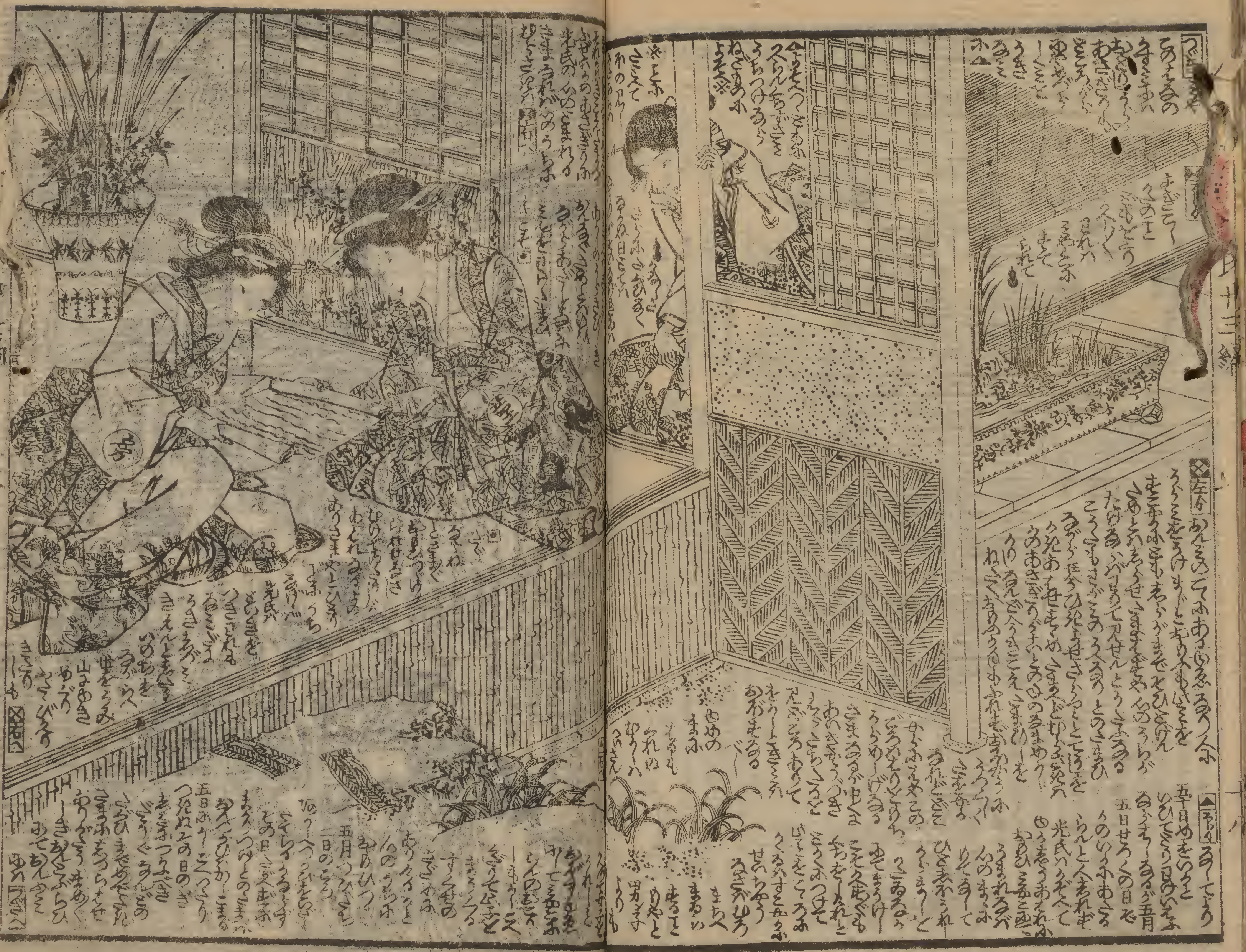
種彦作　国貞画



通油町 北側 つるや きえもん

第廿三編下冊




五十日めきのうと
いひてとり日はいまは
五月
五日せろくの日を
光氏は
光氏の
五日
五月
二日

柳亭種彦作
歌川國貞画

浄書 千形道友

天保十年己亥初春新彫

偐紫田舎源氏 当年廿八編ゟ三十三編を開板[illegible]
柳亭種彦作 歌川國貞画

楠一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

百人一首稚講釋 八冊 山東京山作 歌川國虎画

清盛一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

無筆節用似字盡
視藥霞引札
各再板 曲亭馬琴作 歌川國芳画

佐野渡怨歎懸橋 全六冊 緑亭仙橘作 五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開 全四冊 白雲洞主人作 五雲亭貞秀画

藻塩艸須磨書簪 全四冊 松下樓麓谷作 五雲亭貞秀画

美艶仙女香
黒油美玄香 四十八銅 南傳馬町三丁目西側

書物 錦繪 團扇 地紙 問屋
江戸通油町 鶴屋喜右衛門

第卅四編上冊

偐紫田舎源氏

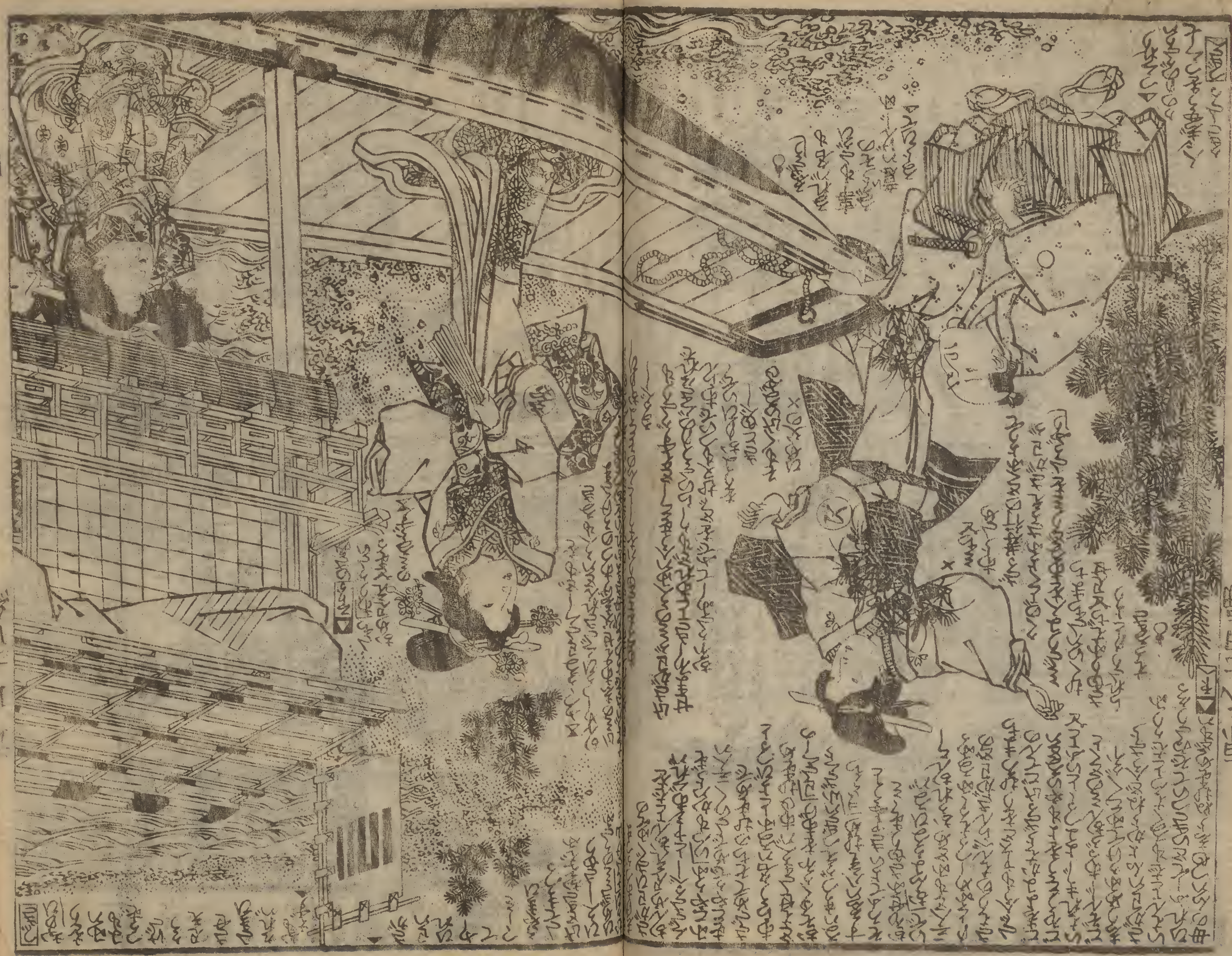
柳亭種彦作
歌川國貞画

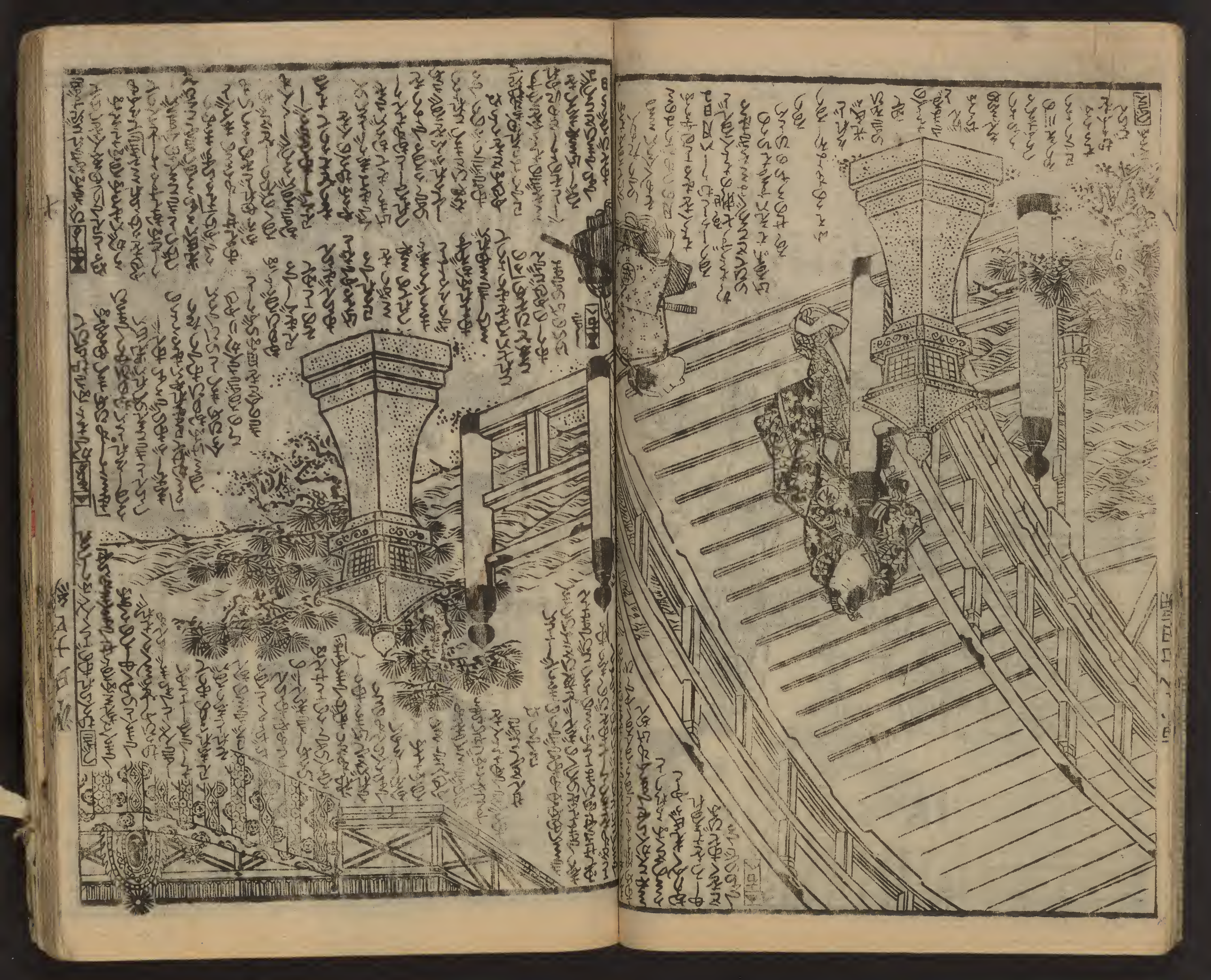
是第卅四編を歌舞妓の根本に譬言ば口明ハ澪標の續き
にて作り物住吉の社の景に橋掛り一面の松並木其綠の
明石より連さまるく宮参り岸にて浪の音するく陸へ初知入
行列と遠見に袖もぬれたる田蓑の島や難波江は道具
かわりて口明の詰は六條田舎乃後住藤家の琴の所作に
幕ひらく大擬の縁語是でも紅葉に阿ふ坂山石山詣でも
かさうら出驛路の後に田舎歌関屋をちらりと二ッ目へさし出く
帯の寝所を驚く樣にかくるる世話場と轉じく時代蒔繪の
東山大殺素袍の諸士の大詰いづまでもあらむの打出しを又
こ紙つらりまた戻り関屋のすなハ後日に譲りし

天保丁酉解凍

柳亭種彦記

阿古木の女
磯菜
光氏
喜代之助の妻
空衣
逢坂の関や
いかなるせきなれば
しげき歎の
なかをわくらん





國貞画
種彦作

東都 未木國宗匠校輯

俳諧芳叫集 全三冊 板 開

俳諧叢蘭集 全三冊 追刺

東都 未木國宗匠校輯

俳諧 今人附合集 全四冊

彩圓板

俳諧 今四歌仙 全一冊

梅室 未木 柏雨 小圓 四大人の俳諧 三尾の俳諧 者 の俳諧 ものの俳諧 ものの俳諧

田舎源氏友箱 たとへ入 上仕立

俳同輯 諸 七人歌白集 岡板出来

元天保元年より當九年まで四冊

海内宗匠方、不ト及其名ある人々の附合百卷を、四方の同好の流行一時に入せ作るもの

河手遊蔵人 小繪さうし

種彦聞書 貞秀画圖

俳諧 火焚おくり 全三冊

俳諧 きちちやくん 全三冊

茶番いちは 全三冊

俳諧 浦島爺 全三冊

江戸御暦開板所

鶴屋喜右衛門

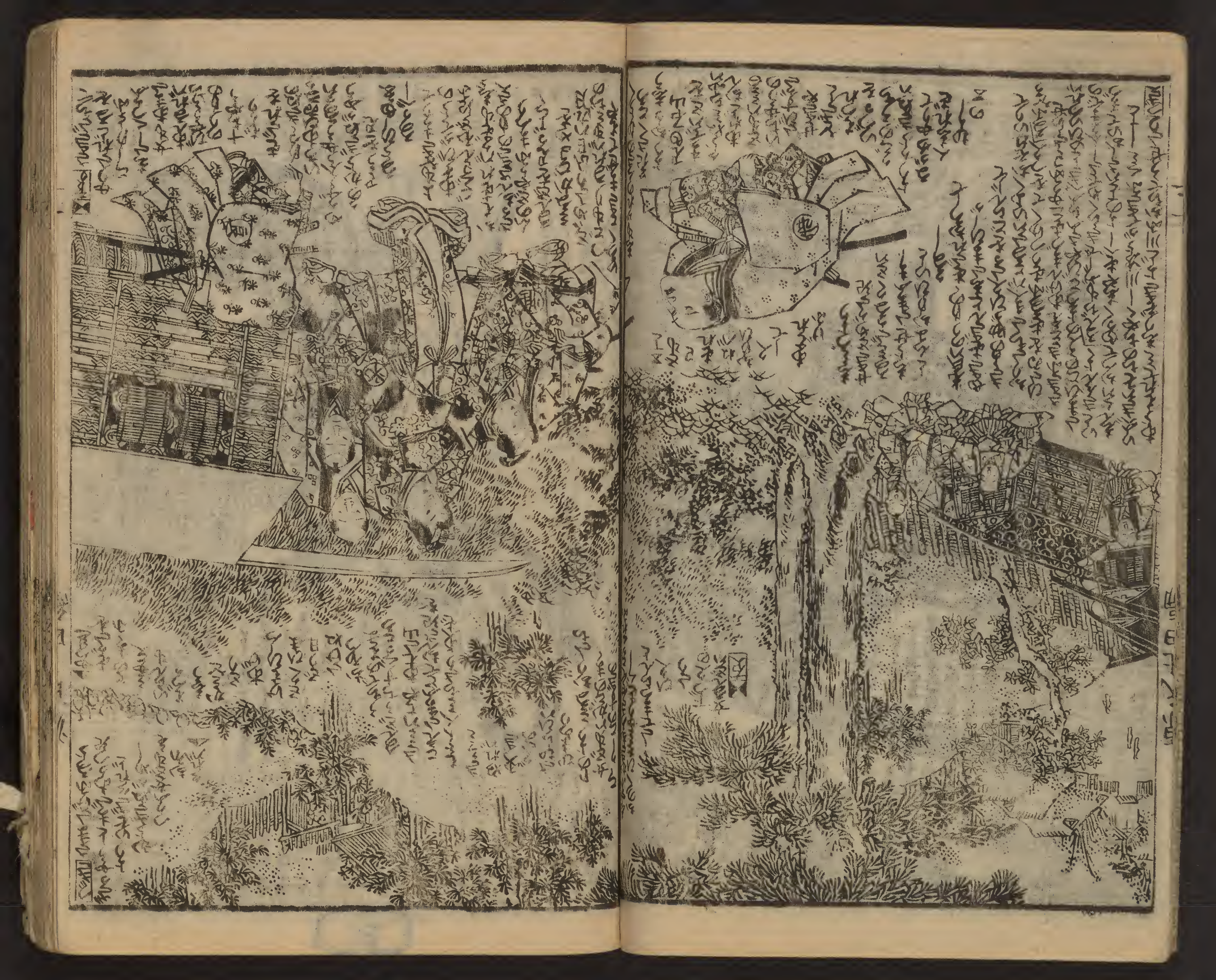
偐紫田舎源氏

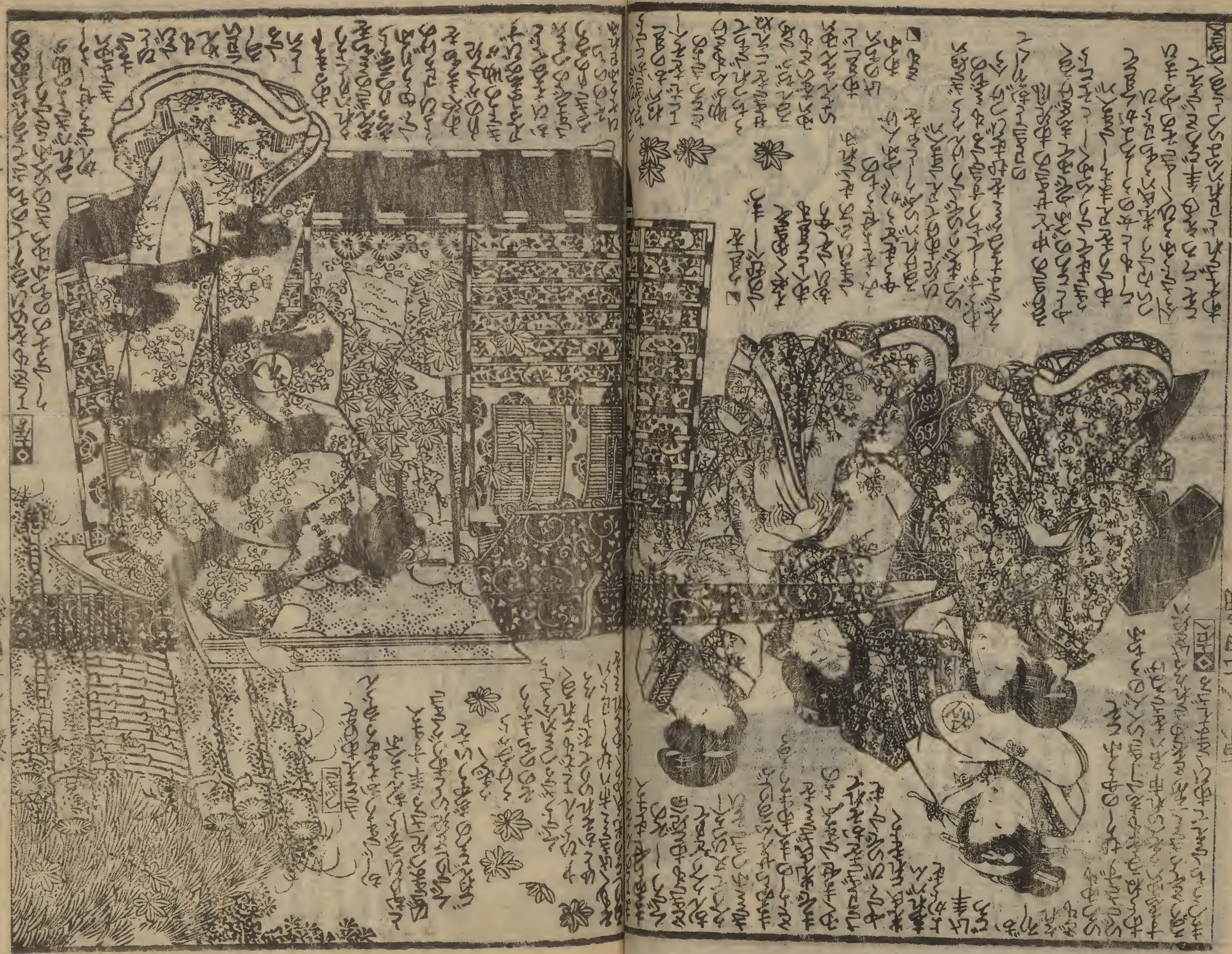
第四十四編 下冊

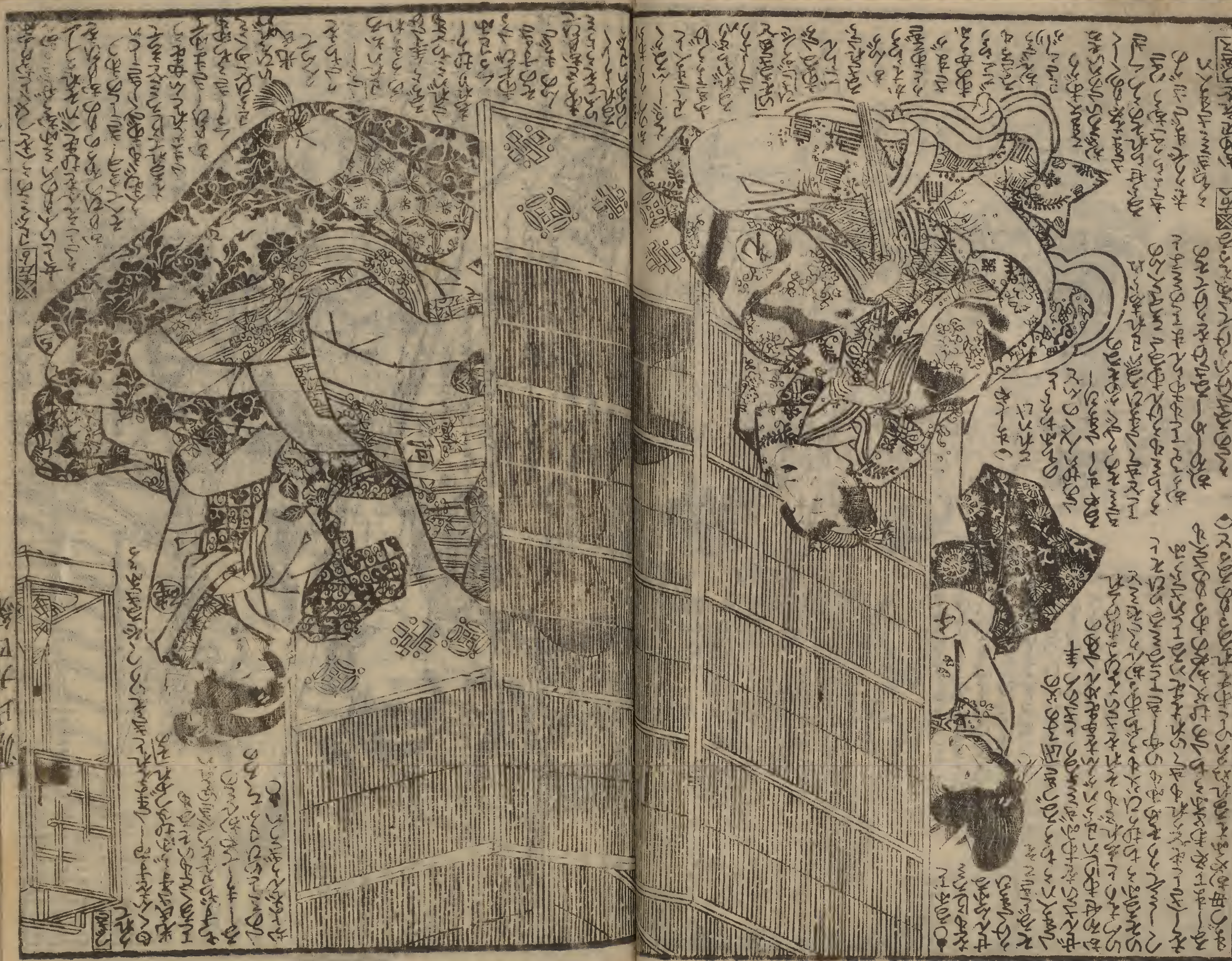
種彦作

國貞画

仙寉堂壽梓







（つゞき）いへどもことわりなれどもおそろしく
それにもおちゐる事なくおもひて
おのれがあだぎさきまでも今も

左か あそびの

川の音

源氏九四編

國貞画 種彦作

浄書 千形道友

[illegible]

[illegible]

美艶仙女香
黒油美玄香
南傳馬町三丁目
坂本氏

天保十年己亥初春新彫

偐紫田舎源氏 当年廿八編より三十三編を開板 柳亭種彦作 歌川國貞画

摘一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

百人一首稚講釈 八冊 山東京山作 歌川國虎画

清盛一代記 五冊 烏有山人作 歌川國芳画

無筆節用似字盡
視薬霞引札
各再板 曲亭馬琴作 歌川國芳画

佐野渡怨歎懸橋 全六冊 緑亭仙橘作 五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開 全四冊 白雲洞主人作 五雲亭貞秀画

湊塲艸須磨書替 全四冊 松下樓麓谷作 五雲亭貞秀画

美艶仙女香 四十八銅
黒油美玄香 南傳馬町三丁目西側 坂本氏製

書物 錦繪 團扇 地紙 問屋
江戸通油町 鶴屋喜右衛門